

# 1967年 大会記録

## 国際

### ◇全米選手権（4月11～15日、米国・リンカーン）

《フリースタイル》▼フライ級 鈴木宣之（日大）＝優勝、八田忠朗（米国在住）＝2位、▼バンタム級 飯山巖（日大）＝五失、八田正朗（米国在住）＝2位、▼フェザー級 中村文昭（中大OB）＝六失、▼ウェルター級 笹川一夫（日大）＝三失、▼ミドル級 中島一彦（桃山学院大）＝四失

《グレコローマン》▼フライ級 岡田雅勝（関大）＝三失、▼バンタム級 富野道男（NYAC）＝優勝、▼ミドル級 丸山充信（パシフィック大）＝三失

### ◇世界選手権＝グレコローマン（9月1～3日、ルーマニア・ブカレスト）

▼フライ級 桜間洋二（自衛隊）＝三失、▼バンタム級 花原勉（日体大教）＝3位、▼フェザー級 藤本英男（日体大助手）＝3位、▼ライト級 岡唯勝（国士舘大）＝二失、▼ウェルター級 武田充興（山形・鶴岡高教）＝二失、▼ミドル級 開健次郎（自衛隊）＝二失、▼ライトヘビー級 服部勤（日体大）＝二失、▼ヘビー級＝派遣なし

### ◇世界選手権＝フリースタイル（11月12～14日、インド・ニューデリー）

▼フライ級 中田茂男（自衛隊）＝優勝、▼バンタム級 田中忠道（福岡大職）＝四失、▼フェザー級 金子正明（自衛隊）＝優勝、▼ライト級 佐藤明弘（大東大助手）＝4位、▼ウェルター級 佐々木龍雄（自衛隊）＝3位、▼ミドル級 川野俊一（自衛隊）＝5位、▼ライトヘビー級 滝沢信也（日大）＝三失、▼ヘビー級＝派遣なし

## 国内

### ◇西日本学生春季リーグ戦（5月13日～28日、大阪府立体育会館ほか）

《順位》[1] 関大（7季連続23度目）、[2] 関学大、[3] 近大、[4] 同志社大、[5] 桃山学院大、[6] 名城大、[7] 名商大、[8] 広島修道大、[9] 中京大

### ◇東日本学生リーグ戦（6月2～4日、東京・日大講堂）

《順位》[1] 明大（3年ぶり18度目）、[2] 日大、[3] 日体大、[4] 中大、[5] 専大、[6] 東洋大、[7] 早大

#### ◇西日本学生選手権（ ）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 水野良則（近大）、▼バンタム級 狭間一男（同志社大）、▼フェザー級 平井穰（近大）、▼ライト級 長井暁（関大）、▼ウェルター級 倉橋裕（関大）、▼ミドル級 笹尾五十六（関学大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 平池雄三（関大）、▼バンタム級 岡田雅勝（関大）、▼フェザー級 石井克周（関大）、▼ライト級 長井暁（関大）、▼ウェルター級 倉橋裕（関大）、▼ミドル級 笹尾五十六（関学大）

#### ◇インターハイ（8月1～4日、福井・金津町体育館）

《学校対抗戦》[1] 北海道・旭川南（初）、[2] 青森・八戸工、[3] 秋田・秋田経済付、秋田・五城目

《個人戦優勝者》▼52kg級 市山好秋（山口・柳井学園）、▼55kg級 小笠原勉（青森・八戸商）、▼58kg級 高瀬正夫（山口・柳井学園）、▼61kg級 高橋昭雄（北海道・士別商）、▼65kg級 田中忠（新潟・新潟東工）、▼69kg級 新荘一（山口・柳井商工）、▼73kg級 長谷川恒夫（山口・桜ヶ丘）、▼73kg以上級 磯貝頼秀（千葉・習志野）

#### ◇世界選手権代表選考会＝グレコローマン（8月12～13日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼フライ級 桜間洋二（自衛隊）、▼バンタム級 花原勉（日体大教）、▼フェザー級 藤本英男（日体大助手）、▼ライト級 宗村宗二（大谷運輸）、▼ウェルター級 藤井照雄（郡上紡績）、▼ミドル級 開健次郎（自衛隊）、▼ライトヘビー級 服部勤（日体大）、▼ヘビー級 滝沢信也（日大）

#### ◇世界選手権代表選考会＝フリースタイル（9月23～24日、東京・代々木競技場第2体育館）

《優勝者》▼フライ級 中田茂男（中大）、▼バンタム級 田中忠道（福岡大職）、▼フェザー級 金子正明（自衛隊）、▼ライト級 佐藤明弘（大東大助手）、▼ウェルター級 佐々木龍雄（自衛隊）、▼ミドル級 遠藤茂（日大OB）、▼ライトヘビー級 川野俊一（自衛隊）、▼ヘビー級 滝沢信也（日大）

#### ◇全日本学生選手権（9月16～17日、東京・日大講堂）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 鈴木宜之（日大）、▼バンタム級 畑ヶ谷恵一（明大）、▼フェザー級 阿倍巨史（専大）、▼ライト級 河内政彦（明大）、▼ウェルター級 山縣盛治（日体大）、▼ミドル級 鈴木脇夫（明大）、▼ライトヘビー級 矢田静雄（日体大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 石黒修一(日体大)、▼バンタム級 服部正男(明大)、▼フェザー級 岩上亨(明大)、▼ライト級 松浪健四郎(日体大)、▼ウェルター級 岡山忠博(日体大)、▼ミドル級 赤坂博(明大)、▼ライトヘビー級 小島俊二(明大)

**◇全日本学生王座決定戦(10月13~14日、東京・世田谷区立体育館) = 決勝成績**

日大○ [5-4] ●明大

※日大は3年連続4度目の優勝

**◇国体(10月23~26日、埼玉・飯能市民体育館)**

《一般フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田嘉久(神奈川)、▼バンタム級 田中忠道(福岡)、▼フェザー級 金子正明(埼玉)、▼ライト級 河内政彦(新潟)、▼ウェルター級 山縣盛治(山口)、▼ミドル級 佐々木龍雄(埼玉)、▼ライトヘビー級 伊藤義人(山口)、▼ヘビー級 川野俊一(埼玉)

《一般グレコローマン優勝者》▼フライ級 石黒修一(福岡)、▼バンタム級 桜間幸次(埼玉)、▼フェザー級 藤本英男(徳島)、▼ライト級 新荘建彦(山口)、▼ウェルター級 宗村宗二(新潟)、▼ミドル級 田代俊郎(千葉)、▼ライトヘビー級 開健次郎(埼玉)、▼ヘビー級 服部勤(岐阜)

《高校優勝者》▼52kg級 常川治久(富山)、▼55kg級 横山幹夫(新潟)、▼58kg級 佐藤俊明(新潟)、▼61kg級 原田正光(秋田)、▼65kg級 田中忠(新潟)、▼69kg級 新荘一(山口)、▼73kg級 長谷川恒夫(山口)、▼73kg以上級 小玉誠孝(秋田)

※少年はフリースタイルのみ

**◇東日本学生グレコローマン対抗戦(11月12日、明大) = 決勝成績**

日体大○ [] ●国士舘大

※日体大は初優勝

**◇東日本学生秋季新人戦(11月18~19日、東京・青少年総合センター)**

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 柏倉岳美(東洋大)、▼バンタム級 中島俊美(日体大)、▼フェザー級 池野哲也(中大)、▼ライト級 浜野善行(中大)、▼ウェルター級 中村恵一郎(早大)、▼ミドル級 吉田敏忠(日大)、▼ライトヘビー級 野尻修一(日大)、▼ヘビー級 矢田静夫(日体大)

※フリースタイルのみ

**◇西日本学生秋季リーグ戦（11月24～26日、大阪府立体育会館別館）**

《順位》[1] 関大（8季連続24度目）、[2] 同志社大、[3] 近大、[4] 関学大、（決勝リーグ前に敗退）桃山学院大、中京大、名商大、名城大、広島修道大、福岡大

**◇全日本社会人選手権（12月2～3日、東京・青少年総合センター）**

《実業団対抗戦優勝》日本スタミノン、《クラブ対抗戦優勝》川口クラブ

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 久保繁蔵（自衛隊）、▼バンタム級 福田富昭（日本スタミノン）、▼フェザー級 森田武雄（群馬・館林高教）、▼ライト級 高橋弘（自衛隊）、▼ウェルター級 小林和行（自衛隊）、▼ミドル級 国安尚之（自衛隊）、▼ライトヘビー級 石井（東京ダイハツ）、▼ヘビー級 山口勇雄（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 平山紘一郎（自衛隊）、▼バンタム級 池内（ヘルスクラブ）、▼フェザー級 岩室好純（日本スタミノン）、▼ライト級 桜井藤雄（自衛隊）、▼ウェルター級 阿倍（東京パブリカ）、▼ミドル級 長尾猛司（自衛隊）、▼ライトヘビー級=出場なし、▼ヘビー級 佐藤（高崎クラブ）

**◇全日本選手権（68年3月7～10日、東京・代々木競技場第2体育館）**

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田義勝（明治乳業）、▼バンタム級 上武洋次郎（オクラホマ州立大）、▼フェザー級 森田武雄（群馬・館林高教）、▼ライト級 ザルベク・ベリアシビリ（ソ連）、▼ウェルター級 ユーリ・シャクムラドフ（ソ連）、▼ミドル級 ボリス・グレビッチ（ソ連）、▼ライトヘビー級 ショータ・ロミーゼ（ソ連）、▼ヘビー級 滝沢信也（日大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 杉山三郎（日体大）、▼バンタム級 ルスタム・カザコフ（ソ連）、▼フェザー級 藤本英男（日体大教）、▼ライト級 宗村宗二（明大）、▼ウェルター級 ビクトル・イグメノフ（ソ連）、▼ミドル級 オマール・ブリアーゼ（ソ連）、▼ライトヘビー級 ニコライ・ヤコベンコ（ソ連）、▼ヘビー級 矢田静雄（日体大）